

「手立て一覧表」の中で、分かりづらいと思われる手立てについて、事例を紹介します。

A 見通す

ステップ②へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)

g 児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールまでのプロセスのイメージをつかめるようにする。

(例) 教師が提案した大まかな計画に対し、それぞれの活動が何時間必要かを考えさせる場合

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	「しらべたこと」をもとにして、自分のクイズを作る。	えらんだ本から、クイズを作るためのメモを書く。	えらんだ本から、クイズを作るための本をえらび、読んでしらべる。	「じぶんがクイズを作るための本をえらび、読んでしらべる。」	「本をつかったしらべ方を知り、ほかのどうぶつについて知る。」	「ずを作るビーバー」のクイズを作る。	「ずを作るビーバー」のクイズを作る。	「タムを作るビーバー」のクイズを作る。	「木を切りた柱」のクイズを作る。	クイズの「もんだい」と「こたえ」の作り方をたしかめる。	「ビーバーの大工事」を選んで、ひみつを見つける。	先生のクイズをやってみる。 学習のけいかくを立てる。

教師が提案した学習計画



先生は、学習計画をこのように立ててみました。本で調べる活動は、何時間くらい必要だと思いますか。



2時間あれば、できると思います。

そうだね。前の調べ学習も2時間でできたね。



g 児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールまでのプロセスのイメージをつかめようにする。

(例) 学習のゴールに近づく(課題を解決する)ために、どのようなことができるようになるべきかを考えさせる場合(話すこと・聞くこと)



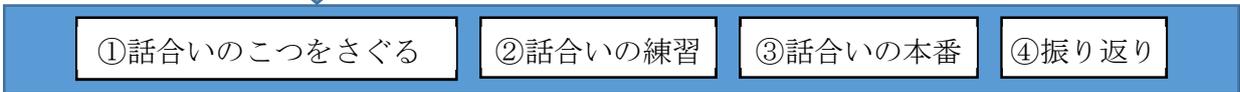
みんなで「上手に話し合うコツ」をさぐって、「グループ会議の達人」になる学習をします。どのような勉強をしていけばいいと思いますか。

どのような「コツ」があるか、みんなで考えます。



では、この4つで学習計画を立てていいですか。

本番のグループ会議の前に、練習をしたいです。



さらに、授業を進める中で学習計画を見直す場合もあります。



(「①話し合いのコツをさぐる」学習時)

上手な話し合いをするためのコツを見付けましょう。

教科書に掲載されている、話し合いのモデルと、**改善の余地が残る話し合いの例**とを対比的に提示

- ・理由を付けずに考えを話す
- ・分からないことがあってもそのまま
- ・似た意見をたくさん挙げる

きちんと理由を付けて話すと、考えていることが相手に伝わります。



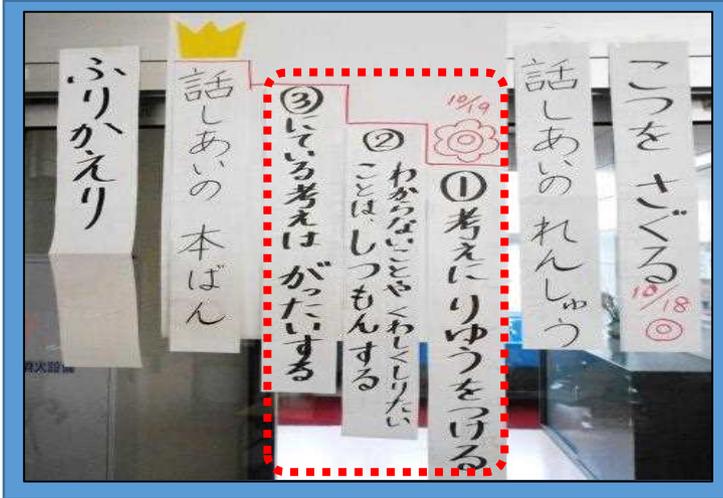
分からないときは、質問をすると教えてもらえます。



似ている意見は1つにまとめると、すっきりします。



では、学習計画「②話し合いの練習」のとき、どのようなことができるように練習をすればいいのでしょうか。



児童と共に見直した学習計画 (部)

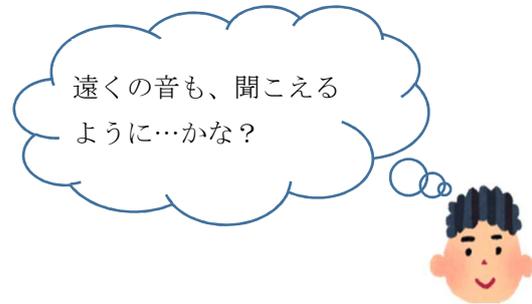
h 児童が行う（作成する）言語活動のモデルを教師が示すことで、児童の「あなりたい」「こうしたい」という願いや思いを引き出す。



昨日、動物についての図鑑を読んでいた、すごいなと思ったことがありました。みんなにも教えたくてクイズにしてみましたので、聞いてください。

（モデルの問題部分のみを提示）
「ウサギの耳は、どうして長いのでしょうか。」

（うさぎ） どうして長いのでしょうか！
もんだい
 うさぎの耳は、どうして長いのでしょうか。
こたえ
 自分をねらっているてきがないか、小さい音まで聞きのがさないレーダーのようなはたらきをするためです。また、体の中の熱を外にたくさんにがすためでもあります。



児童が作成する言語活動のモデル
（クイズの問題と答え）



答えを言います（モデルの答え部分のみを提示）。
「自分をねらっているてきがないか、小さい音まで聞きのがさないレーダーのようなはたらきをするためです。また、体の中の熱を外にたくさんにがすためでもあります」。

そうだったんだ。知らないことを知ることができて嬉しい。私も、ほかの動物のすごいところを見つけて、先生のようなクイズを発表したいな。



A 見通す

ステップ③へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)

f 学習課題で、何をどのようにすれば、どのような力が身に付くのかを児童と共通理解しておくことで、学習への目的や必要性を実感できるようにする。



学習課題は、明解な「指導事項 (A)」、「具体的な「思考操作 (B)」、価値ある「言語活動 (C)」の3つのフレーズを組み合わせて設定します。下の2つの例は、佐賀大学教育学部の達富洋二先生に教えていただきました。

(例)「ちいちゃんのかげおくり」(光村図書3年)で学習課題を立てる場合

- (A：指導事項) 場面の移り変わりを捉える。
- (B：思考操作) 場面ごとの出来事を選んで比べる。
- (C：言語活動) 「あのととき・このとき 感想」カードに書く。

学習課題

この単元では、場面の移り変わりについて学習します。
実際には、「あのととき・このとき 感想」カードを書きます。
書くときは、「あのととき」と「このとき」の出来事を選んで比べるようにします。

(例)「すがたをかえる大豆」(東京書籍3年)で学習課題を立てる場合

- (A：指導事項) 目的を意識して、中心となる語や文を見付ける。
- (B：思考操作) 段落ごとになくてはならない言葉や文を選ぶ。
- (C：言語活動) 「すがたをかえた大豆の説明文」を書く。

学習課題
〈1文で示すパターン〉

- (A) 説明の中心となる言葉や文を、
- (B) 段落ごとになくてはならないかどうか選んで、
- (C) 「すがたをかえた大豆の説明文」を書きます。

学習課題
〈2文で示すパターン〉

- (A) この単元では、説明の中心となる言葉や文を見付ける学習をします。
- (B) 段落ごとになくてはならない言葉や文を選んで、
- (C) 「すがたをかえた大豆の説明文」を書きます。

学習課題
〈3文で示すパターン〉

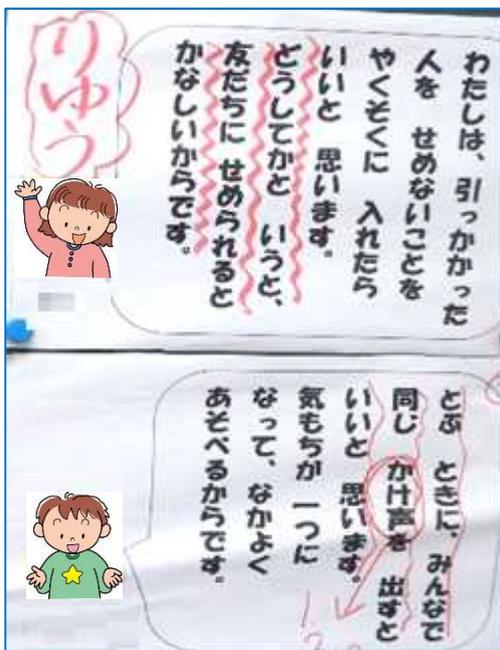
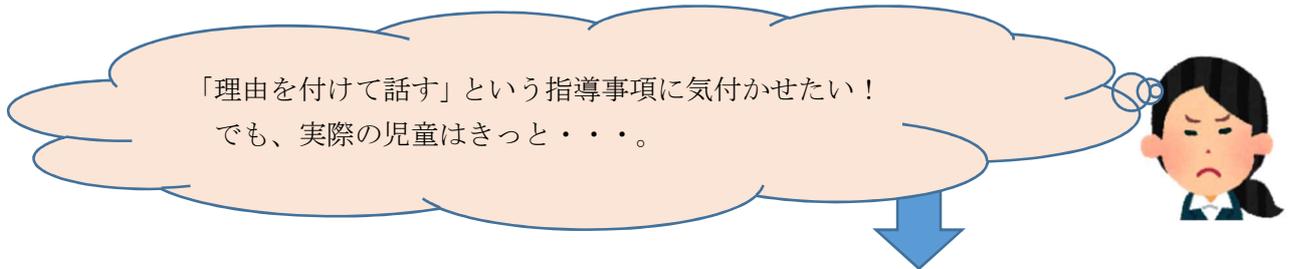
- (A) この単元では、説明の中心となる言葉や文を見付ける学習をします。
- (C) 実際には、「すがたをかえた大豆の説明文」を書きます。
- (B) そのとき、段落ごとになくてはならない言葉や文を選びます。

※学習課題の分量が多い場合は、2文、3文と分けて示すパターンが考えられます。

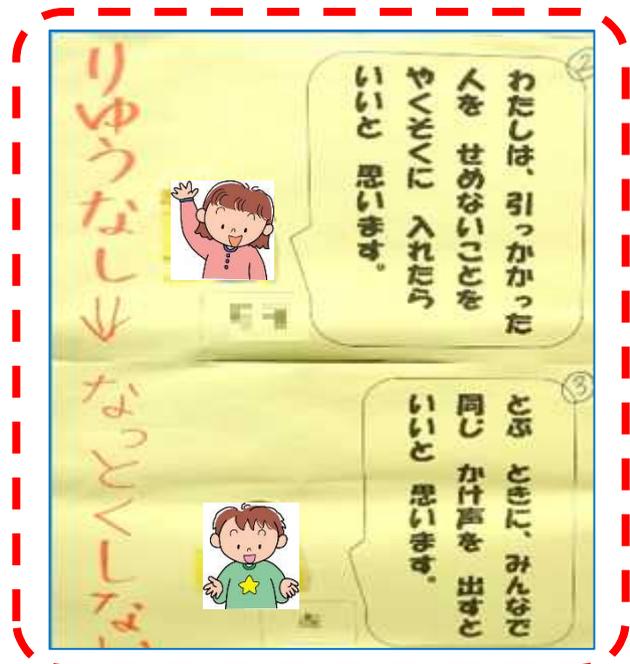
h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようになる。

(例) 児童がつまずきそうな場面をあえて示すことで、身に付けるべき力に気付けるようになる場合 (話すこと・聞くこと)

予想されるつまずきを含む、改善の余地が残る例を教師が自作します。教科書などの良質なモデルと比較させることで、児童が身に付けるべき力に気付けるようにします。



教科書に掲載された話し方のモデル



児童がつまずくであろう話し方の例 (教師自作)



きちんと理由を付けて話すと、考えていることが相手に伝わって便利だな。こんなふうに、理由を付けて話したいな。

h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。

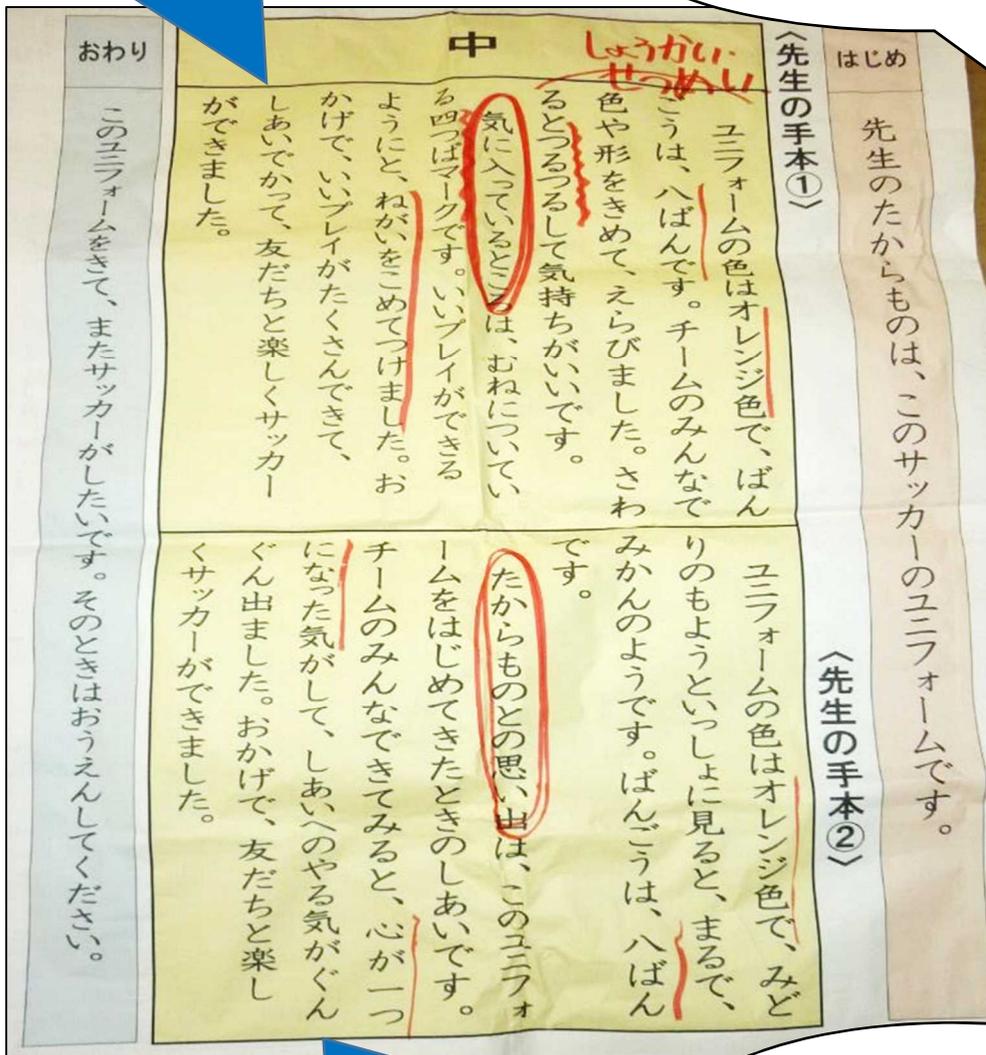
(例) 気付かせたいよさが複数あるモデルを提示することで、身に付けるべき力に気付けるようにする場合 (話すこと・聞くこと)

よさごとに教師がモデルを作成します。モデルを比較することで、それぞれのよさに気付かせることができると考えます。下の写真は、宝物を紹介するスピーチ原稿のモデルです。

〈教師自作のモデル①のよさ〉

- ・手触り (五感)
- ・気に入っているところ、理由

野球のグローブを紹介したいから ごわごわした手触りに加えて、新品のにおいについても書けそうだな。



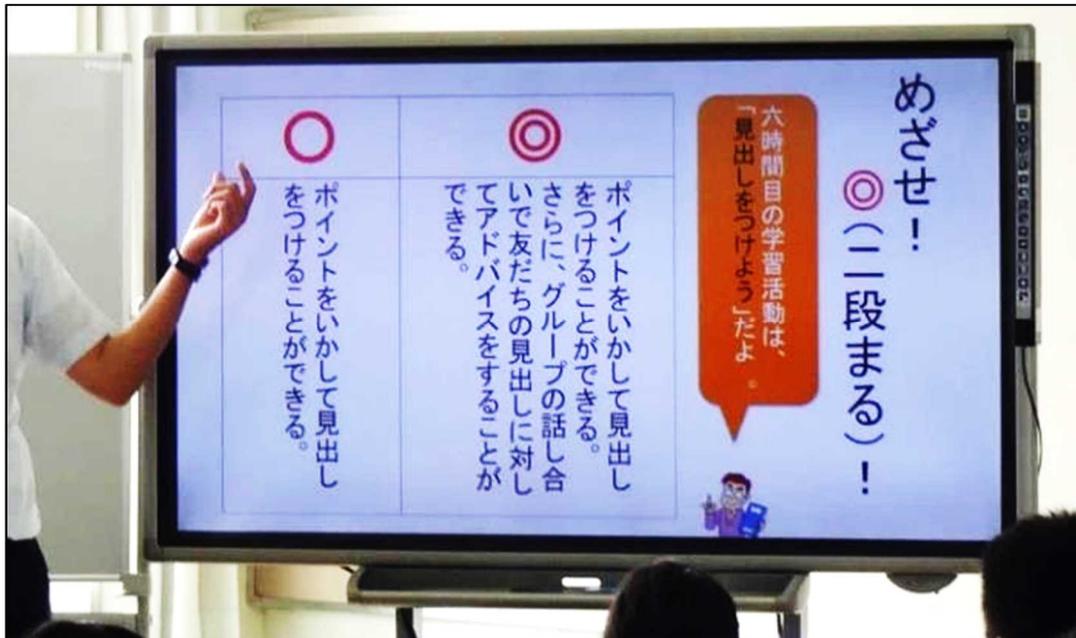
〈教師自作のモデル②のよさ〉

- ・「まるで～のよう」という比喻表現
- ・エピソード

宝物のハンカチは、転校した友達からもらった物だという エピソードを入れよう。

j 到達基準を提示することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。

本時のめあてを提示した後、具体的な到達基準を児童に示します。これにより、児童は授業を振り返る際、明確な根拠をもって自己評価をすることができると考えます。



〈本時の振り返り〉(児童の記述例)



今日は、記事の見出しを考えました。思いや伝えたいこと、記事の話題を入れて見出しを書きました。友達にアドバイスを言うこともできたので、「◎」です。

到達基準を設定するという事は、指導すべきゴールが明確になるという点で、教師にとっても有意義だと考えます。

この到達基準だと、話し合いでアドバイスをするとき、多くの児童がつまづきそう…。話し合いが円滑に進むための手立ても取り入れよう!



到達基準を設定する際のポイント ～△・○・◎の3段階評価の場合～

- ・「○」となる児童の姿は、本時の目標（本時の評価規準B）に対応させて設定します。児童全員が達成できることを目指して、更なる手立ての具体を検討します。
- ・「◎」となる児童の姿を設定する際は、新学習指導要領解説の「各学年の内容」に多くのヒントが示されています。指導上、重要となる点などを踏まえて設定します。

A 見通す

既にステップ③である方に、提案する手立て(例)

i 児童の学習履歴や単元の特質に応じて学習過程に軽重を付けることで、指導事項の習得を促す。

〈一般的な学習過程（書くこと）〉

学習過程	時	主な学習活動
一次（つかむ）	1	○2種類のモデル文を読み、段落の工夫を考え、学習課題を設定する。
		○学習課題を受けて、おおまかな学習計画を立てる。
二次（深める）	2	○学級の友達に一番伝えたいことを考える。
		○出来事を思い出したり、取材したりして、思い出メモを作る。
		○構成を意識してメモを並べ替える。
		○書き出しの工夫を考える。
		○メモを基に作文を書く。
三次（まとめる）	8	○書いた作文を推敲する。
		○作文を読み合い、感想交流を行う。

〈「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、
「考えの形成、記述」に重きを置いた学習過程〉

学習過程	時	主な学習活動
一次（つかむ）	1	○モデル文を読み、意見文の構成の工夫を考え、学習課題を設定する。
		○学習課題を受けて、おおまかな学習計画を立てる。
二次（深める）	3	○自分はどうのような未来にしたいかを考え、テーマを決定する。
		○自分の意見の根拠となる情報を、本などから調べる。
		○グループで意見を聞き合って、考えを深める。
		○予想される反論や、それに対する考えを書く。
		○付箋を並べ替えて、意見文の構成表を作成する。
		○構成表をグループの友達と紹介し合い、必要に応じて修正する。
		○構成表を基に意見文を書く。
		○書いた意見文を推敲する。
		○意見文を読み合い、感想交流を行う。
		○意見文を読み合い、感想交流を行う。

意見文を書く単元の単元計画(例)です。意見に説得力をもたせるために、根拠となる情報を本などから調べたり、友達と意見交流をしたりする過程に重きを置きます。

(例) 重点指導事項が「推敲」である場合（書くこと）

推敲する文章は必ずしも自分が書いたものでなくても構いません。児童が書いた文章が必ずしも「推敲することを学ぶための効果的な材料」とは限らないからです。推敲の力を育成するためには、児童の傾向を観察し、推敲することに効果的で適切な文章を教師が提供することがあってもいいわけです。
(佐賀大学教育学部 達富 洋二先生による)

